



Title	現代英語における強意副詞の用法
Author(s)	永松, 里和
Citation	大阪大学英米研究. 2019, 43, p. 93-108
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/99433
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

現代英語における強意副詞の用法

永松 里和

1. はじめに

本研究は現代英語における口語表現での強意副詞の使用が性別によってどのような違いがあるかを検証する。

強意副詞 (adverbs of degree) の定義は研究者によって用語や範疇が異なる。例えば、Biber et al. (1999 : 554-555) は、度合いを強めるものを amplifiers と呼び、度合いを弱めるものを diminishers と呼んで二つに区分し、それぞれの別称として前者を intensifiers、後者を downtowners と紹介している。しかしこれら 4 つの用語は Quirk et al. (1985 : 589-590) がすでに用いており、その分類方法は Biber et al. とは異なる。Quirk et al. は、adverbs of degree のことを intensifiers と呼ぶ。intensifiers は DEGREE の意味範疇と広く関わる付加詞であり、度合いを強めるか弱めるかによって amplifiers と downtowners の二つに分けた。さらにそれらをどの程度強めるのかまたは弱めるのかによって下位区分した。その分類を簡潔にまとめたものを図 1 に示す。

intensifiers	amplifiers	maximizers (e.g. <i>absolutely, altogether</i>)
		boosters (e.g. <i>badly, bitterly</i>)
	downtoners	approximators (e.g. <i>almost, nearly</i>)
		compromisers (e.g. <i>kind of, sufficiently</i>)
		diminishers (e.g. <i>mildly, only</i>)
		minimizers (e.g. <i>barely, in the least</i>)

図 1 Quirk et al. (1985) による分類

本研究では、Quirk et al. (1985) による分類に基づき、程度の度合いをより高く示す maximizer について調査する。Quirk et al. が同書で例示した maximizers の例の中から、形態的に判別しやすい-*ly* 形の *absolutely, completely, entirely, extremely, fully, perfectly, thoroughly, totally, utterly* の 9 語を調査対象として選んだ。

先行研究によると、Biber et al. (1999 : 564) が、強意副詞は学術的な文章より会話文で広範囲に使用されると明記している¹。性別による使用差は男性より女性の方が好んで使用する (Stoffel 1901, Peters 1994) との記述が見られる。英語の歴史的観点から Peters (1994) は、15 世紀から 18 世紀にわたっての書簡を調査し、女性によって書かれた私的な内容や感情的な内容の書簡に広く強意副詞の使用が認められたと述べている。Tagliamonte & Roberts (2005) は、現代英語における強意副詞の使用傾向を調査した。10 年に及ぶアメリカの TV ドラマシリーズに登場する男女 6 人の日常会話での *so, really, very* の使用場面では、*so* と *very* の使用は女性に多いことを示した。Macaulay (2006) は、スコットランドで強意語として使用される *pure* は女性の話し言葉に多いと指摘している。

先行研究の多くは、使用されたコーパスも異なり、調査対象となる強意副詞も異なるため、より信頼性のある結果を得るためにには、大規模コーパスによる広範囲の調査が必要であると Xiao & Tao (2007) は提唱している。彼らはチューリッヒ大学提供の BNCweb を用いて、強意副詞 33 種を分析している。結果として、Written Section より Spoken Section での強意副詞の使用が多いが、男女差による使用頻度の相違については統計的に有意差はなかった²。しかし、彼らは強意副詞そのものの使用頻度に関する全体像について言及しているものの、共起語についての調査を行っていないので、共起語による男女差があるかを調べてみる。

2. 調査方法

2.1 使用したコーパス

本研究で使用したコーパスはランカスター大学が提供している BNCweb の Spoken Section である³。このコーパスを使用した理由は、約 1 億語を収録した British National Corpus (BNC) のデータを、登録さえすれば誰でも無料でインターネット上で利用できること、品詞タグが付与されているのでコロケーションの確認が容易であること、Spoken Section ではジャンル、性別、年齢などの情報が含まれており目的に応じた検索が可能であるためである⁴。しかし、検索結果が 5,000 件を超える場合には、無作為に抽出された 5,000 件が表示されるという機能面における制限が一部ある。幸い、本研究はこの制限を受けない範囲での調査が可能である。

2.2 調査方法

BNCweb の Tag restriction 機能を用いて、any adjective, any verb, any adverb, any noun, any article, any conjunction, any preposition, any pronoun, any interjection, any punctuation の 10 区分と共に起する maximizer の出現度数を確認したところ、いずれも interjection との共起例はなかった。総合的に見て共起する割合が高いのは、adjective, verb, adverb の順であった。残りの区分をひとまとめにして other とし、それぞれの maximizer について品詞別共起の数値（トークン）を表 1 に示す。

表 1 品詞別共起割合

	総出現数	adjective	verb	adverb	other
absolutely	1887	904(48%)	175(10%)	83(4%)	725(38%)
completely	821	346(42%)	178(22%)	40(5%)	257(31%)
entirely	414	155(37%)	52(13%)	43(10%)	164(40%)
extremely	479	396(83%)	11(2%)	49(10%)	23(5%)
fully	409	77(19%)	220(54%)	9(2%)	103(25%)
perfectly	342	247(72%)	10(3%)	41(12%)	44(13%)
thoroughly	122	15(12%)	66(54%)	0(0%)	41(34%)
totally	802	427(57%)	168(21%)	45(6%)	162(20%)
utterly	41	28(68%)	6(15%)	1(2%)	6(15%)

fully と *thoroughly* については adjective との共起より verb との共起の割合が上回っているが、本研究では用例数が多く分析がより正確になるので adjective との共起関係について調査する。

強意副詞と形容詞の共起関係の調査方法は多種多様で、さまざまな視点から研究がなされている。Altenberg (1991)、Kennedy (2003) は、共起する形容詞が意味的にポジティブかネガティブか、あるいは意味的な共通点を見出して特徴づけている。Paradis (1997) は形容詞の特性を ‘scalar adjectives’ ‘extreme adjectives’ ‘limit adjectives’ に 3 分類したうえで、かつポジティブな意味合いを好むのかネガティブな意味合いを好むのかも分析している⁵。Ito & Tagliamonte (2003) は、ポジティブ・ネガティブ嗜好に加え、Dixon (1982) による 8 グループに振り分けて特徴を見出し、さらに限定用法か叙述用法かについても調べている。のちに Tagliamonte (2007) は、感情的表現か感情のない表現かを調査項目に加えて多変量解析を行っている。本研究では、Tagliamonte らの研究に倣って Dixon (1982: 16) の 8 グループによる分析を試みる。その理由は、グループが細分化されているほうが、より特徴を捉えやすいと考えるからである。Dixon による 8 つのグループと BNCweb からの例文は以下のとおりである。

現代英語における強意副詞の用法

1. Dimension : *big, large, small, long, short, wide, narrow, thick, fat, etc.*

- (1) Oh yes, yes, . . . we had an extremely large rooms. . . (F82 104)

2. Physical property : *hard, soft, heavy, light, rough, smooth, hot, cold, etc.*

- (2) And it was absolutely hot. (KDY 466)

3. Colour : *black, white, red, etc.*

- (3) It will be totally black. (KPA 2179)

4. Human propensity : *jealous, happy, kind, clever, generous, gay, cruel, etc.*

- (4) That he was entirely happy with the results of that summit. (JSG 244)

5. Age : *new, young, old.*

- (5) He looks extremely young, is he. . . (KBW 14233)

6. Value : *good, bad : proper, perfect, pure, delicious, poor, etc.*

- (6) I want us to get a thoroughly good vote in this Euro constituency, by maximizing our effectiveness. (G5G 93)

7. Speed : *fast, quick, slow, etc.*

- (7) . . . I can do with that cos I got a Three Eight Six, it should be perfectly fast. (H61 663)

8. Position : *high, low ; right, left, etc.*

- (8) This group places extremely high priority on the abatement of noise pollution. . . (JT8 216)

Dixon が示した例に従って、意味的解釈が類似する語を各グループに振り分

けた。例えば、full/empty は、Dixon が whole/broken, smashed, split, dissected を Physical property としていることから、full と whole は意味的に類似していると判断し Physical property に分類した。

- (9) I should think his list is absolutely full by now. (KC0 2110)

Age の例は、new, young, old の 3 語しか示されていないが、anachronistic は old-fashioned と同義であるので old の部類に属すると考え、Age に分類した。

- (10) Hunting and all cruel sports which are totally [pause] anachronistic in [pause] present day society. (JNB 351)

このように、個々の例文を吟味してそれぞれの maximizer と共に起する形容詞を分類した。その結果、*thoroughly* 以外は Value との共起が最も多く、次いで Human propensity、Physical property となる。

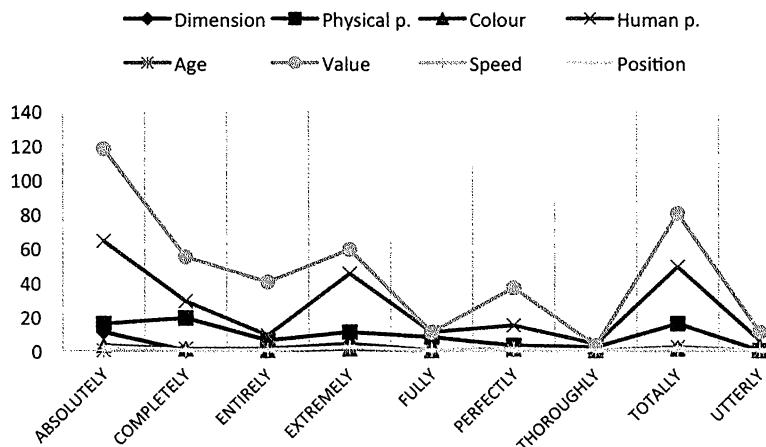


図2 BNCweb Spoken Section における8グループへの分類結果

BNCweb の Spoken Section では、話者の性別が Male/Female/Unknown とカテゴライズされている。Unknown とマーキングされた用例を排除し Man/Female で検索し、比較しやすいように 100 万語あたりの出現度数となるよう調整した⁶。

3. 調査結果

3.1 全体像

各 maximizer の 100 万語あたりの使用頻度を男女別に見てみると、*absolutely* だけが女性優位で、他の maximizer は男性のほうが高い。このことは Xiao & Tao (2007) による BNCweb Spoken Section 全体での調査結果と一致した⁷。本研究における統計的有意差をピアソンのカイ二乗検定（イエーツ補正）で確認すると、*absolutely, fully, thoroughly, utterly* は、有意差がなかつたが、*completely, totally* は有意水準 5% で差があり、*entirely, extremely, perfectly* は有意水準 0.1% で差があり、男性の使用頻度が高い。それぞれの検定結果は以下の通りである⁸。

表 2 Male と Female におけるカイ二乗検定結果一覧

Maximizers	カイ二乗統計値	自由度	p 値	有意性判定
<i>absolutely</i>	0.04	1	0.842	有意差なし
<i>completely</i>	4.38	1	0.036	有意水準 5% で有意差あり
<i>entirely</i>	11.69	1	0.001	有意水準 0.1% で有意差あり
<i>extremely</i>	19.26	1	0.000	有意水準 0.1% で有意差あり
<i>fully</i>	1.33	1	0.249	有意差なし
<i>perfectly</i>	21.82	1	0.000	有意水準 0.1% で有意差あり
<i>thoroughly</i>	0.93	1	0.335	有意差なし
<i>totally</i>	6.57	1	0.010	有意水準 5% で有意差あり
<i>utterly</i>	1.29	1	0.256	有意差なし
TOTAL	36.95	1	0.000	有意水準 0.1% で有意差あり

≡ Male ≡ Female

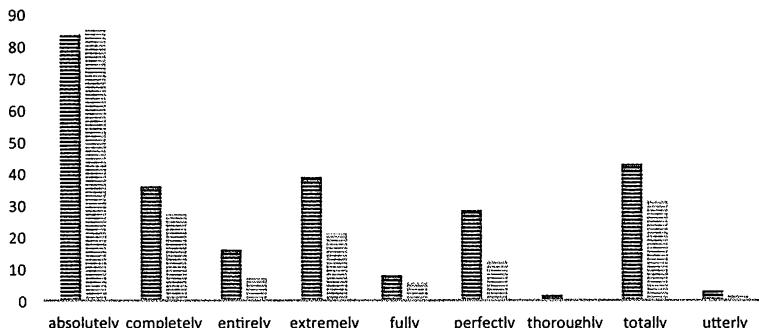


図3 男女別 maximizer の使用分布 (pmw)

3.2 出現頻度に見る男女別特徴

それぞれの maximizer と共にした主だった形容詞を、出現頻度順にまとめた。形容詞のあとに括弧内の数字は粗頻度を表し、記入のないものは一度しか出現しなかったものである。*Thoroughly* と *utterly* については、タイプ数が少なかったのですべての共起形容詞を記す。

表3 maximizer と共にする主な形容詞

Maximizers	Male	Female
absolutely	right (44), clear (25), essential (14), certain (13), sure (10), brilliant (9), wonderful (9), stupid (8), perfect (8), free (7), true (7), etc.	right (22), brilliant (12), wonderful (12), marvelous (9), true (9), sure (7), fantastic (6), gorgeous (6), terrible (6), amazed (5), etc.
completely	different (48), new (11), wrong (8), anonymous (5), separate (5), clear (4), closed (4), empty (3), fair (3), irrelevant (3), true (3), etc.	different (29), irrelevant (5), anonymous (4), confident (4), new (4), fallacious (2), full (2), opposite (2), ruined (2), wrong (2), etc.
entirely	different (9), clear (4), happy (4), sensible (4), possible (3), wrong (3), appropriate (2), consistent (2), necessary (2), new (2), reasonable (2), etc.	different (8), sure (2), consistent, legal, mendacious, new, normal, optional, public, reasonable, etc.

extremely	difficult (19), good (16), important (16), valuable (7), helpful (6), interesting (6), large (5), useful (4), expensive (3), negative (3), rich (3), etc.	difficult (11), good (11), nice (3), important (2), frustrating (2), jealous (2), cold (2), clever, low, pale, etc.
fully	aware (11), qualified (2), fledged (2), justified (2), open (2), abrupt, awake, comprehensive, full, supportive, etc.	aware (5), qualified (3), washable (2), competent, detailed, functional, inclusive, interactive, legal, mature, etc.
perfectly	honest (19), good (10), clear (9), happy (9), true (8), reasonable (7), acceptable (5), mobile (4), alright (3), valid (3), etc.	honest (6), healthy (5), normal (4), happy (3), alright (2), clean (2), clear (2), capable (2), mobile (2), sane, etc.
thoroughly	annoyed, anxious, good, depressed, disposable, non-political, relevant, respectable	convinced, wet
totally	different (47), wrong (10), opposed (6), convinced (4), separate (4), unnecessary (4), clear (3), dependent (3), illegible (3), impossible (3), etc.	different (33), wrong (7), new (3), accurate (2), boring (2), honest (2), illiterate (2), ridiculous (2), separate (2), etc.
utterly	disgraceful (2), impossible (2), bored, brilliant, confused, fantastic, wrong, incompetent, overwhelmed, precise, unexpected, unreasonable, wasteful	bemused, disgraceful, readable, useless, valid

8 グループに分類した結果、*fully*, *thoroughly* を除いて、いずれも Value に属する形容詞との共起が多い。*fully* と *thoroughly* の数値が極端に低いのは、もともと形容詞との共起が 19%、12% と低い割合であるためだと考える。Kennedy (2003) が指摘するように、*fully* の共起語はどのグループでもネガティブな意味合いを持つ語はみられなかった。Human propensity に分類した aware との共起が男女ともに最も多く、男性 11 回、女性 5 回の出現であった。

Absolutely の共起語で使用例が多いのは、Value での right (男性 44 回、女性 22 回) と、Human propensity での sure (男性 10 回、女性 7 回) である。Paradis (1997: 79) は *absolutely* と共に相当数の形容詞は感情的意味合いの強い語であると述べているが、amazed (男性 3 回、女性 5 回)、ap-

palled (男性 2 回、女性 0)、desperate (男性 2 回、女性 3 回)、shocked (男性 0、女性 1 回) などの例が散見されるものの際立って多いというわけではない。しかし、一見すると、ネガティブな感情表現は女性に多いという印象を受けるので、今後検証する必要がある。

- (11) But she's, they're absolutely adamant about it, you know. (KBL 4029)

Completely には Dimension, Speed, Position に分類される形容詞はなかった。共起語で顕著なのは Value に分類した different である。男性 48 回、女性 29 回と多い出現頻度である。different と多く共起した他の maximizer は、*entirely* (男性 9 回、女性 8 回) と *totally* (男性 47 回、女性 33 回) である。いずれも、それぞれの共起語の中で最多共起数である。また、Physical property に振り分けた anonymous も同様に、*completely* (男性 5 回、女性 4 回)、*entirely* (男性のみ 1 回)、*totally* (男性 2 回、女性 1 回) での共起が認められた。ひとつの形容詞に対し、複数の maximizer と共にできる互換性については、今後の研究課題の一つである。

- (12) The case and conversation details will all be completely anonymous, so no one will know . . . (KBX 72)
- (13) No, it's entirely anonymous all they're trying to do is find out how people speak. (KDA 370)
- (14) Er it's totally anonymous. (FM4 16)

Extremely は、女性の使用範囲が 8 グループすべてに及んだのに対し、男性の Colour, Age での使用は見られなかった。しかし、女性に使用が認められた Colour, Age, Speed, Position の用例はごく少数であり、特徴づけることはできなかった。Value での高頻度共起語は、difficult (男性 19 回、女性 11 回)、good (男性 16 回、女性 7 回)、important (男性 16 回、女性 2 回) であ

った。

Perfectly は、ポジティブな意味を持つ語との共起を好み (Kennedy 2003, Paradis 1997)、Paradis (*ibid.*, 81) の London-Lund Corpus による調査では、ネガティブな形容詞との共起例は見つからなかった。本調査では、Value に *bad* が一例 (男性)、*Human propensity* に *blunt* と *silly* が一例ずつ出現し、どちらも使用したのは男性で、女性には見当たらなかった。それ以外はすべてポジティブな内容の形容詞である。

Thoroughly は用例が少ないため特徴を捉えることができないが、形容詞との共起関係全体でみると、男性 1.62 pmw、女性 0.61 pmw で、男性の使用頻度の方が若干高かった。動詞との共起が 54% を占めるので、そちらを検証する必要がある。

Totally との共起語は男女ともに否定的な接頭辞 (*il-*, *im-*, *in-*, *ir-*, *un-*) を伴う形容詞が多いことが特徴的である。特に Value では、男性が使用した 62 種の形容詞のうち 29 種がこれにあたり約半数を占めている。それに対し女性は 28 種中 7 種で 4 分の 1 を占めている。Value での最多共起語は先に述べた *different* であるが、次いで *wrong* が多く、男性 10 回、女性 7 回であった。

Utterly はネガティブな意味合いを持つ語と共に持つ傾向が強いことは、Kennedy (2003)、Paradis (1997: 81)、Méndes-Naya (2012) らの研究でも示されている。Méndes-Naya は 20 世紀のコーパスデータに 2 例だけポジティブな意味合いの共起語 (*beautiful*, *certain*) があったことを紹介している⁹。BNCweb での本調査でも男性による *brilliant* と *fantastic* の使用例が Value の中に認められた。

- (15) Sounds utterly brilliant thank you very much for that news Darren. (FMC 137)
- (16) Well he showed me packets thirty five and forty pounds a week which then those days was utterly fantastic money. (K61 67)

Quirk et al. (1985: 470) は、*utterly* はネガティブな形容詞と共に起する傾向があるが *utterly reliable* と *utterly delightful* は一般的であると述べている¹⁰。しかし、用例の少なさのためか、本研究では *reliable*, *delightful* との共起例はなかった。

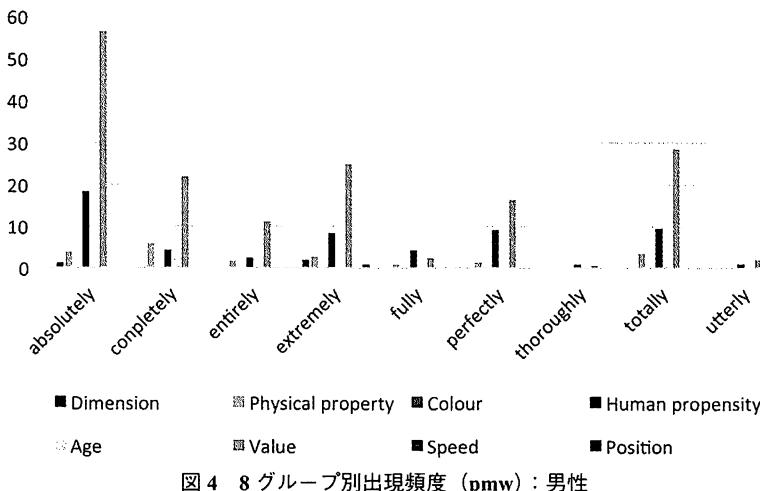


図4 8 グループ別出現頻度 (pmw)：男性

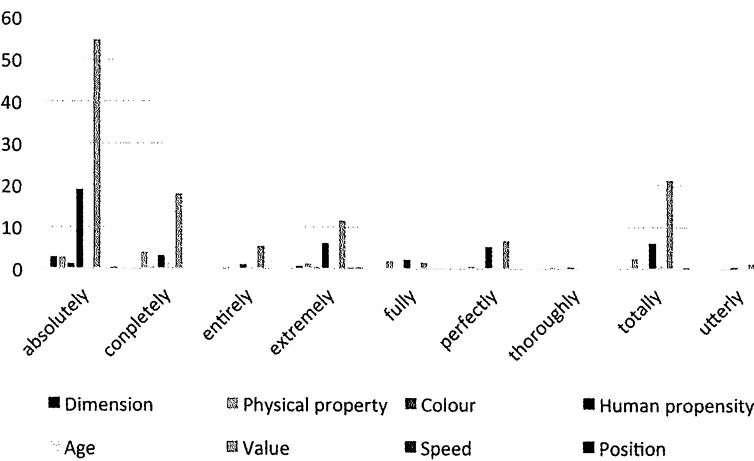


図5 8 グループ別出現頻度 (pmw)：女性

出現頻度に比例して、形容詞のタイプ数は男性の方が豊富である。使用分布でわずかに女性が優位であった *absolutely* でも、タイプ数は男性を下回る。その要因として考えられるのは、集録データの話者数が男性 2,448 人に対し女性 1,360 人という不均衡も一因であるが、話題、すなわち話されているトピックによるのではないだろうか。BNCweb では、Spoken Section のジャンルによる検索が可能があるので、今後調査していきたい。

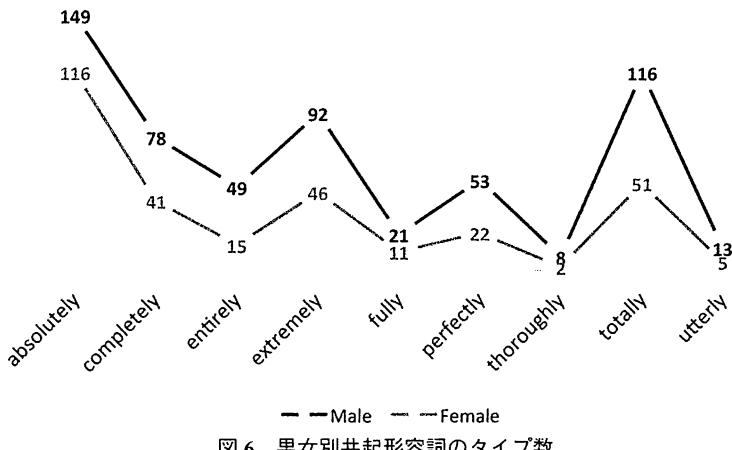


図 6 男女別共起形容詞のタイプ数

4. まとめと今後の展望

これまで女性のほうが副詞の使用を好むとされてきたが、BNCweb Spoken Section での maximizer に関する調査では、全体的に男性の方が使用頻度においても形容詞のタイプ数においても、女性より多く使用していることがわかった。

形容詞を Dixon (1982) による 8 グループに分類して調査したところ、どの maximizer も、Physical property, Human propensity, Value に分類される共起語が多数見られた。それに反して、Colour, Age, Speed, Position に分類す

べき共起語の例がごくわずかしかなく、これらの特徴を得ることはできなかった。Dixon の分類を用いて Ito & Tagliamonte (2003)、Tagliamonte (2007) がヨーク市民（イギリス）とトロント市民（カナダ）の *so, really, very* の使用状況調査を行っている。Tagliamonte らの一連の研究では、*Speed, Position* での使用が際立って多く見られ、*Age* も低くはなかった。さらに *Physical property, Human Propensity, Value* はほぼ同程度で使用率が低く、本研究で取り上げた 9 つの *maximizer* の結果とは逆であると言っても過言ではない。これは、*so, really, very* は、極めて高頻度に使われる日常語であるため、共起語もより日常的なシンプルな形容詞と結びつけられやすいためではないかと推測する。残念ながら Tagliamonte らの研究は、*so, really, very* の使用状況の推移を調査することを目的としているため、この推測の解答となるような言及はなされていないが、*maximizer* は ‘limit’ または ‘extreme’ な性質を帶びた形容詞と共に起する特徴がある（Paradis, 1997: 77-82）ため、比較的シンプルな *Speed* や *Position* を表す語とは結合しにくいのではないかと考える。

本研究を通して、新たな課題が見えてきた。第一に、*maximizer* 間の互換性である。Different, wrong にみられた *completely, entirely, totally* との共起のように、他にも共通する形容詞を調査することによって、*maximizer* 間に何らかの特性を見出すことである。第二に、本研究で男性の方が豊富な語彙と結びついているのは、話題と関係があるのかを調べることである。Xiao & Tao (2007) の研究に、Written Section でのジャンルごとの調査結果が示されている。そこではジャンルによる男女の使用差が明確に表れているので、Spoken Section でもあり得るのではないだろうかと推測する。今回は形容詞との共起関係について調査したが、動詞との共起についても、互換性やジャンルによる差が生じているのかを検証していきたい。

注

- 1 Biber et al. (1999: 564) “Conversation uses a wider range of common amplifiers than academic prose.”

- 2 Xiao & Tao は log-likelihood (LL) score を用いて検定し、全体として統計的有意差はない (LL = 0.002, 1 d.f., p = 0.965)。
- 3 BNCweb (CQP-Edition) は次の URL でユーザー登録ができる。
<http://bncweb.lancs.ac.uk/bncwebSignup/user/register.php>
インターフェイスの簡潔な説明は次の URL をご参照願いたい。
<http://corpora.lancs.ac.uk/BNCweb/>
- 4 細かくタグ付けされており、詳細は次の URL で確認できる。
<http://ucrel.lancs.ac.uk/bnc2/bnc2guide.htm#m5>
- 5 この分類は Allerton (1987) に基づいて Paradis が再編したものである。 (Paradis 1997 : 48)
- 6 Male の総語数が 4,949,938 語、Female の総語数が 3,290,569 語である。
- 7 *absolutely* の数値だけみると男性 177,01 pmw、女性 188,55 pmw (LL = 0.62) で女性優位ある。 *utterly* は有意差がない (LL = 0.26) ものの、他の maximizers では有意差があり、すべて男性の使用頻度が高い。
- 8 検定は『言語研究のための統計入門』(2010, くろしお出版) の付属 CD-ROM に収録されている仮説検定用 Excel ファイルを使用した。
- 9 示された例文には明記されていないが、使用した 2 つのコーパスのうち、A Representative Corpus of Historical English Registers のデータだと思われる。
- 10 Quirk et al. (1985 : 470) “For example, though *utterly* tends to cooccur with ‘negative’ adjectives, *utterly reliable* and *utterly delightful* are common.”

参考文献

- Altenberg, B. (1991) ‘Amplifier Collocations in Spoken English’ in *English Computer corpora : Selected Papers and Research Guide*, ed. by S. Johansson and A-B. Stenström. Berlin : Mouton de Gruyter.
- Biber, D., Johansson, S., Leech, G., Conrad, S. and Finegan, E. (1999) *Longman Grammar of Spoken and Written English*, London : Pearson Education Limited.
- Dixon, R. M. W. (1982) *Where Have All the Adjectives Gone? and Other Essays in Semantics and Syntax*. Berlin, New York, Amsterdam : Mouton Publishers.
- Ito, R. and Tagliamonte, S. (2003) ‘*Well Weird, Right Dodgy, Very Strange, Really Cool : Layering and Recycling in English Intensifiers*’ *Language in Society*, Volume 32 : 257-279
- Kennedy, G. (2003) ‘Amplifier Collocations in the British National Corpus : Implications for English Language Teaching’, *TESOL Quarterly*, Volume 37, Number 3, Autumn :

467-487.

- Macaulay, R. (2006) ‘Pure Grammaticalization : The development of a Teenage Intensifier’. *Language Variation and Change* 18 (2006) : 67-283
- Méndez-Naya, B. (2012) ‘A Preliminary Study of the History of the Intensifier *Utterly*’ available at http://www.aedean.org/pdf_atatimecrisis/MendezNaya_AEDEAN35.pdf
- Paradis, C. (1997) *Degree Modifiers of Adjectives in Spoken British English*. Lund : Lund University Press.
- Peters, H. (1994) ‘Degree Adverbs in Early Modern English’ in *Studies in Early Modern English*, ed. by D. Kastovsky. Berlin : Mouton de Gruyter.
- Quirk, R., Greenbaum, S., Leech, G. and Svartvik, J. (1985) *Comprehensive Grammar of the English Language*, New York : Longman Group Limited.
- Stoffel, C. (1901) *Intensives and Down-toners : A Study in English Adverbs* Heidelberg : Carl Winter
- Tagliamonte, S. (2008) ‘So Different and Pretty Cool! Recycling Intensifiers in Toronto, Canada’. *English Language and Linguistics* Volume 12, Number 2 : 361-394
- Xiao, R. and Tao, H. (2007) ‘A Corpus-based Sociolinguistic Study of Amplifiers in British English’. *Sociolinguistic Studies* Vol.1.2 2007 : 241-273
- 石川慎一郎・前田忠彦・山崎誠編 (2010) 『言語研究のための統計入門』 くろしお出版